



ゆめに向かう『やる気』ゆめをかなえる『本気』何度でもやり直す『根気』

輝け！口石っ子 佐々町立口石小学校 学校便り

令和3年7月12日 15号 文責 校長 岩下裕之介

普通の暮らしの幸せ

7月6日(火) 4年生 福祉体験

投稿日時：07/06 9:53  口石小学校 カテゴリ:授業の様子

4年生では、総合的な学習の時間に「福祉について考えよう」という学習を行っています。

今日はその学習の一環で、佐々町社会福祉協議会のみなさんにゲストティーチャーとして来ていただきました。

福祉とは、「ふ」つうの、「く」らしの「し」あわせということで、

「普通に暮らせることが、どんなに幸せなんだ。」

ということについて考えていきます。

子どもたちは、車いすについての学習を通して、福祉に対する意識を高め、障害のある方々に対してどのように接していけばいいのかについて体験を通して考えてきました。子どもたちが社会福祉協議会のみなさんの話をしっかりと聞き、真剣に学習している姿が輝いていました。



私は介助を初めてして見て、声をかけることが大切だと知りました。なぜかというと、段差の時に転ばないように、段差の前に「段差があるから、気をつけてね。」と声をかけることで、乗っている人も落ち着いて坂道や段差を越えられると思います。これから車いすで通っている人を見たら、よけたり、「気をつけて下さい。」とか、声かけなどをしたりして、車いすに乗っている人達を自分なりに助けたいです。

車いすに乗っている時には、段差の時に少しガタンとゆれてこわかったです。介助する時には、どれ位の速さで動かしたりすればいいのかが難しかったです。見ている時に、自分の手で動かしているのを手伝いたくなりました。今日学習したことを、生活の中でどんどん使っていきたいです。

私は、車いす体験で、車いすにのっている人達の気持ちと、介助の人達の気持ちがわかりました。車いすに乗っている人は、介助の人が段差の所で声をかけないと、こわかったです。介助の人は、段差で上げる時に車いすの人が落ちるかが心配になりました。最後に車いすの工夫を知ることができました。ベッドに乗る時の工夫や、片足だけ怪我をしている人が乗れたりするような工夫もありました。

読書だGO！

口石小学校では、

「読むことが楽しいと感じる、本の好きな子ども」

「幅広いものの見方、感じ方、考え方ができる子ども」

「自らの課題をもって、自分の力で解決しようとする子ども」

をめざす児童像として、図書館教育に力を入れています。

1学期は、図書委員会の子どもたちを中心に、新着図書の紹介、図書館利用の呼びかけを行ってきました。今回は、6月1日から28日まで行った「読書だGO！」の取組で、本をたくさん読んだ人を紹介します。

1年

2年

3年

4年

5年

6年

読書だGO! (6月1日～6月28日) ()まいめ
 ()年 ()組 名前 ()

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨

※ 8月までの記録をお願いします。
※ 一人1冊のみ記入でも大丈夫です。
※ 一人1冊以上の記入をがんばりましょう。